

大学院特別講義

(医歯学先端研究特論) (生命理工学先端研究特論)
(医歯理工学先端研究特論)

下記により大学院特別講義を行いますので、多数ご来聴下さい。

記

講 師：山下 秀一郎先生

東京歯科大学 教授

演 題：歯の連結固定

日 時：平成26年 2月17日(月)

18時00分 ～ 20時00分

場 所：7号館2階 歯学部第3講義室

講演要旨：

歯の連結固定は、日常臨床において非常に高い頻度で行われる処置方法である。臨床家の間では、固定がその後の歯の移動や歯周組織の破壊を予防し、咬合の崩壊を防ぐと長く信じられてきた。固定の臨床的効果としては、咬合力が多数歯に分散されること、患者に咀嚼時の快適さが得られること、歯周支持組織の安定が得られ咬合性外傷の進行を阻止できることなどが期待されている。しかし、文献的にはその根拠に関する報告は必ずしも多くない。むしろ、種々の動物実験や臨床実験においては、動揺歯を固定してもそれが除去されると歯の動揺は減少していないことが示されており、歯周組織の治癒を促進するために歯を固定することは必ずしも正当化されていない。

欠損補綴治療を行う場合、動揺歯を何らかの形で補綴処置に動員せざるを得ない状況に遭遇することが多々認められる。この場合、残存歯に対してどのような前処置が必要とされるのかについては、明確な基準が示されていない。単独で活用すべきなのか、あるいは連結固定を行うべきなのか、固定の際には一次固定とするのか、二次固定とするのか、選択肢は多岐にわたっている。

本講義では、歯の連結固定に関する臨床的な疑問について、具体的な臨床例および文献的考察を交えながら解説したい。